

臨床スポーツ医学会学術委員会内科部会
「スポーツと薬物使用」

専門部会 内科

部会長 河野一郎、

構成員 赤間高雄、小松 裕、鈴木秀典、武者春樹、山澤文裕、渡部厚一

平成21年度研究活動状況

ドーピング防止はスポーツドクターにとって重要な活動分野であるが、我が国のスポーツドクターの現状は明らかではない。また、2010年8月には第1回ユースオリンピックが開催された。このような状況をふまえて、学術委員会内科部会では以下の活動を行った。

1. ドーピング防止に関する会員アンケートの解析

2008年7月に本学会正会員2,307人を対象として実施した「ドーピング防止に関するアンケート」の結果をさらに詳細に解析した。

アンケート用紙の回収数は746人で、回収率は32.3%であった。回答者の主な専門分野は、整形外科が387人(51.9%)、内科が188人(25.2%)、外科が59人(7.9%)、小児科が14人(1.9%)、その他が90人(12.1%)、無効回答が8人(1.0%)であった。財団法人日本体育協会公認スポーツドクター(日体協SD群)525人(70.4%)、日体協SDを持たず日本整形外科学会認定スポーツ医あるいは日本医師会認定健康スポーツ医を有する者(日体協以外SD群)159人(21.3%)、いずれのスポーツドクター資格も有しない者(非SD群)62人(8.3%)であった。

「ユネスコ国際規約」については日体協SD群の約70%が理解していると回答し、「文科省ガイドライン」と「WADA規程」については日体協SD群の約40%、「JADA規程」、「禁止表国際基準」、および「TUE申請」については、日体協SD群の約50%が理解していると回答し、他の2群に比較して理解率が高いことが明らかとなった。「TUE申請の経験」については、日体協SD群の医師の経験率(32%)が高く、内科医よりも整形外科医が高いことが明らかとなった。また、スポーツドクター資格を有する者の約70%近くが、ドーピング防止講習会または個別指導の経験があると回答し、禁止表やTUEに関する知識が十分ではない医師が、実際には競技者に対してドーピング防止の指導をしている可能性も考えられた。

本調査によって、日体協SD群のドーピング防止活動に関する理解や経験は、他の群より高いことが明らかになった。しかし、日体協SDの有資格者であってもドーピング防止に関する知識や経験は十分とは言えない実態も明らかになった。我が国においてスポーツドクターに対するドーピング防止教育はまだ不十分であり、また、競技者は一般医を受診する機会が多いことから、スポーツドクター有資格者だけではなく多くの医師を対象としたドーピング防止教育プログラムが必要であると考えられた。

「サプリメント使用」については、必要な場合に限り使用すべきと回答した者が、日体協SD群77%、日体協以外SD群66%、非SD群79%で、使用すべきでないと思

答した者は、日体協 SD 群 17%、日体協以外 SD 群 27%、非 SD 群 15%であった。日体協以外 SD 群でサプリメント使用に否定的な者が多かった。

2. ユースオリンピック代表選手におけるサプリメント使用の現況

2006 年に行った JISS の調査では、トップアスリートの 82%が何らかのサプリメントを使用しており、さらに 20 歳以上の選手と 10 代の選手を比較すると、20 歳以上の選手（平均年齢 25.0 歳）で 88.1%、20 歳未満の選手（平均年齢 18.4 歳）で 65.4%と、年齢とともにサプリメント摂取率が増えること、20 歳未満の選手でも 6 割を超える選手が何らかのサプリメントを使用していることが明らかになった。

2010 年には 14 歳から 18 歳のアスリートを対象に初めてのユースオリンピックがシンガポールで開催されたが、今回さらに若年であるユースオリンピックの日本代表候補選手 75 人（平均年齢 16.4 歳）に対して同様の調査を行った。その結果、男子アスリートでは 73%、女子アスリートでは 57%、全体で 63%の選手が何らかのサプリメントを使用していると答え、その内訳はアミノ酸 32 人（47%）、プロテイン 16 人（21%）、ビタミン 12 人（16%）、ミネラル 7 人（9%）、炭水化物 4 人（5%）などであった。また、「栄養バランスのよい食事を心がけているか？」の問いに対して、12 人（15%）が、「いいえ」と答えていたが、そのうちの 7 人がサプリメントを摂取していた。

日本のユースオリンピック世代トップアスリートの高いサプリメント摂取率が確認されたが、同時に、サプリメントの安全性や有効性、普段の食事の重要性などを十分に理解せずにサプリメントを使用している傾向もうかがえた。今後は、ジュニア世代のアスリートに対するサプリメントに関する正しい情報の提供と同時に、スポーツ栄養、アンチドーピングも含めたサプリメント使用にかかわる教育が必要と思われた。

平成 22 年度研究活動予定

1. ドーピング防止

- ・ 会員へのドーピング防止情報の提供
- ・ スポーツドクター養成カリキュラムにおけるドーピング防止教育への要望

2. スポーツ活動の際に注意すべき治療薬について

3. スポーツ参加の基準の見直しについて